

政治経済学Ⅰ

第13回：デモクラシーの効用

2016年1月20日

矢内 勇生

「世界の飢餓の歴史を見ると、ある程度自由な報道が認められている独立した民主国家で、重大な飢餓が発生したことはない」

(Amartya Sen. 1999. *Development as Freedom* [邦訳：アマルティア・セン 『自由と経済開発』])

デモクラシーがいい？

- 世界の多くの人々の認識：独裁制より民主制のほうが「良い」
 - 本当？
 - 本当なら、なぜ？ 何が良いの？

民主制と独裁制

★民主制と独裁制はどんな違いを生むの？

- 規範的議論：民主制は、
 - 自由を保障する
 - より公正である
 - より正義に適う
- 「物質的」議論：
 - 民主制のほうが豊かになれる？

民主制 vs 独裁制

豊かになれるのはどっち？

- 民主制と独裁では
 - どちらの経済成長が早い？
 - どちらのほうが長生きできる？
 - どちらがより健康になれる？
 - どちらがよい教育を受けられる？
 - どちらのほうがお金持ちになれる？

政治体制と経済成長

- 民主体制と独裁体制のうち、経済成長に適しているのはどっち？
- ★ まだはっきりした結論は出ていない
 - 独裁制のほうがいい！
 - 民主制のほうがいい！

対立する議論

Q: デモクラシーは経済成長を促進する？

- 民主制は経済成長を促す (Robert Barro, Douglass North, Mancur Olson, etc.)
- 民主制は経済成長を阻害する (Karl de Schweinitz, Walter Galenson, Samuel Huntington, etc.)
- 民主制と独裁制に違いはない (Adam Przeworski, etc.)

議論のポイント

- 所有権の保護
- 投資と消費のどちらが重視されるか
- 独裁者の自律性

所有権の保護

民主制が有利なのは、法の支配（rule of law）によって所有権が守られているから

- 民主制は、政府が私的所有物を没収できないようにしている
- ➡ 投資が増える
- ➡ 経済が成長する

証拠

- イングランド
 - 近代初期に「制限政府」を実現
 - 急速な経済成長
- フランス
 - 同時期に「無制限の」王が存在
 - あまり経済成長せず

想定される因果関係

デモクラシー



法の支配



所有権の安定



投資



成長

データ分析の結果 (Barro 2000)

- 法の支配は経済成長を早めている
- 法の支配は投資を増やしている
- おそらく

法の支配 → 所有権の安定 → 投資 → 成長

という関係は正しい！

しかし・・・

- 肝心の

デモクラシー → 法の支配

という関係が確認できない

- 法の支配の指標とデモクラシーの指標を比べてみると、デモクラシーのスコアが悪い（独裁制の）国でも、法の支配のスコアが良い国がある

法の支配 + 独裁制

- 法律が一貫した方法で運用されている
 - 政府が法律によって制限されている
 - 予測が可能 → 投資しやすい
- ただし、その法律が公正で正義に適ったものかどうかは別の問題
- 例：シンガポール（「開発独裁」）

法の支配のない民主制

- 政治的権利は認められているが、所有権がしっかり守られていない
 - 投資しても他人に奪われる可能性があるので、投資しにくい
- 1980年代：コロンビア、イスラエル、ベネズエラ
- 1990年代：ボリビア、ホンジュラス、南アフリカ

政治体制と法の支配

- 民主制であっても独裁制であっても、法の支配はあったりなかったりする
- ➡ 法の支配が経済成長にとって重要であるなら、政治体制が重要であるとはいえない
- ➡ 政治体制と経済成長に関係はない！（？）

民主制 → 所有権

- しかし、より民主的な国の方が、所有権が守られやすくなるという研究もある
(Leblang 1996, Rigobon and Rodrik 2004)
- さらなる研究が必要な分野

民主制と経済成長の関係がはっきりしない訳

- 民主政府は、所有権を侵害できる！
（税金）
- 国民の多数が税金を取ろうと思えば、
徴税を通じて所有権を侵害することが可能

民主制における税率決定の仕組み

Meltzer-Richard モデル (I)

- 政府は税金をとる
- 政府は徴収した税金の分だけ支出する（借金も貯金もしない）
- 税金の使い方は再分配のみ
- 全員から一定の「率」で徴税
- 全員に一定の「額」で分配

民主制における税率決定の仕組み

Meltzer-Richard モデル (2)

- 社会の中で平均所得を稼ぐ人：払う税金と受け取る額が同じ：損得なし
- 平均より貧しい人：払う分より受け取る分が多い：税金によって得する → 増税を希望
- 平均より豊かな人：払う分より受け取る分が少ない：税金によって損する → 減税を希望

民主制における税率決定の仕組み

Meltzer-Richard モデル (3)

- 平均より貧しい人 \equiv 生産性が低い人
- 平均より豊かな人 \equiv 生産性が高い人
- 生産が0の人：税率100%がいい
- 生産性が最大の人：税率0%がいい
- ほとんどの人はその中間
 - 平均値より貧しくても、平均に近いほど低い税率を好む

政治体制と税率

- 独裁制：決定権をもっているの裕福な人 → 税率が低くなる → 生産性が高い人の所有権が守られる
- 民主制：決定権をもっているのは多数（中位投票者） → ちょうど真ん中の人より平均より貧しい → 税率が高くなる（経済格差が大きいほど高くなる） → 生産性が高い人の所有権が侵害される

民主制：貧者による収奪システム？

- 民主制：貧しい人々が再分配を通じて豊かな人々から収奪する
- 左派政権の誕生 → 右派クーデタになる可能性
- 例：アルゼンチン (1976), チリ (1973), グアテマラ (1954)

税率と経済成長

- 高い税率 → 投資よりも消費が好まれる
 - 投資：将来の割引率の大きさに依存
 - 高税率：投資から得られる利益が減少
 - 現在の消費がより有利に

Meltzer-Richard モデルの問題 (I)

- 民主制で高税率になるとは限らない
 - 裕福な人に比べ、貧しい人は投票に行かない (事実)
 - その結果、中位投票者が豊かな人になる可能性が高い
 - そうであるなら、税率は低くなるはず

Meltzer-Richard モデルの問題 (2)

- 貧しい人が増税を望むとは限らない
 - 裕福な人に比べ、貧しい人の方が増税を嫌う (かもしれない)
 - 日本でこの傾向が顕著
 - 日本の左派政党 (共産党、社民党) は増税 (特に消費税増) に強く反対

政治体制と経済成長

- 政治体制と経済成長の関係は未だに明らかになっていない
- 問題：独裁制より民主制の方が所有権を保護するかどうかわからない

独裁制のほうが良い？

- 民主制

- ➡ 労働者が消費志向

- ➡ 投資が減る

- ➡ 経済成長が遅れる

(de Schweinitz; Galenson)

民主制と消費

- 労働者：豊かではないので、将来を考える余裕がなく、賃金は消費（家賃、食費など）に消える
- 民主制
 - ➡ 労働者が団結して労働組合や政党を作ることが可能
 - ➡ 労働者が賃上げに成功する
 - ➡ 会社の利益が圧迫され、投資が少なくなる
 - ➡ 成長が遅れる

独裁制と投資

- 民主制の労働者が「現在志向」であるのに対し、独裁者は「未来志向」であり得る
 - ➡ 資産を投資にまわす
 - ➡ 経済成長を促進する

たぐさんの前提

- 貧しい方が消費（現在）志向
 - 経済成長の主因は投資
 - 独裁者のほうが民主制リーダーより未来志向
- ★これらの前提は正しいの？
- 理論の内容とともに、前提の正しさも確かめる必要がある

独裁者の自律性

- 独裁者の方が、民主制のリーダーよりも自律している（自由である）
- 民主制のリーダーは、特殊利益の影響を受け易い（選挙があるから）
- 自律性は経済成長にとって良いの？悪いの？

自律性が成長を促す

- 独裁者は自律している
- ➡ 選挙民を喜ばせる行動ではなく、成長に必要な政策を選択できる
- ★ 独裁者は「成長」を選択するの？

自律性が成長を阻害する

- 独裁者は自律している
 - ➔ 無制限に好き勝手なことをできる
 - ➔ 独裁者に収奪されることを恐れて、資産が海外に流出する
 - ➔ 経済成長できない
- ★ デモクラシーと何が違うの？

デモクラシーと政府の業績

- 民主制の政府は独裁制の政府よりよくやっている？
- 6つの点に注目
 1. 富（一人当たりGDP）
 2. 新生児が医者によって取り上げられる割合
 3. 検診を受けられる妊婦の割合
 4. 乳幼児のワクチン接種率
 5. 千人あたりの乳幼児死亡数
 6. 平均寿命

デモクラシーを測る

- デモクラシーの「程度」と政府の業績の関
係に注目：Polity IV を使う
- Polity IV：-10（最も独裁的）から10（最
も民主的）まで、21段階の評価

デモクラシーが「良い」理由 (1)

- 政府が貧しい人の状況を改善するような政策を実行しない
- ➡ 貧しい人は選挙を通じて政権を交代させることができる
- ➡ 政府は政権に留まりたいので、貧しい人のためになるような政策を実施する

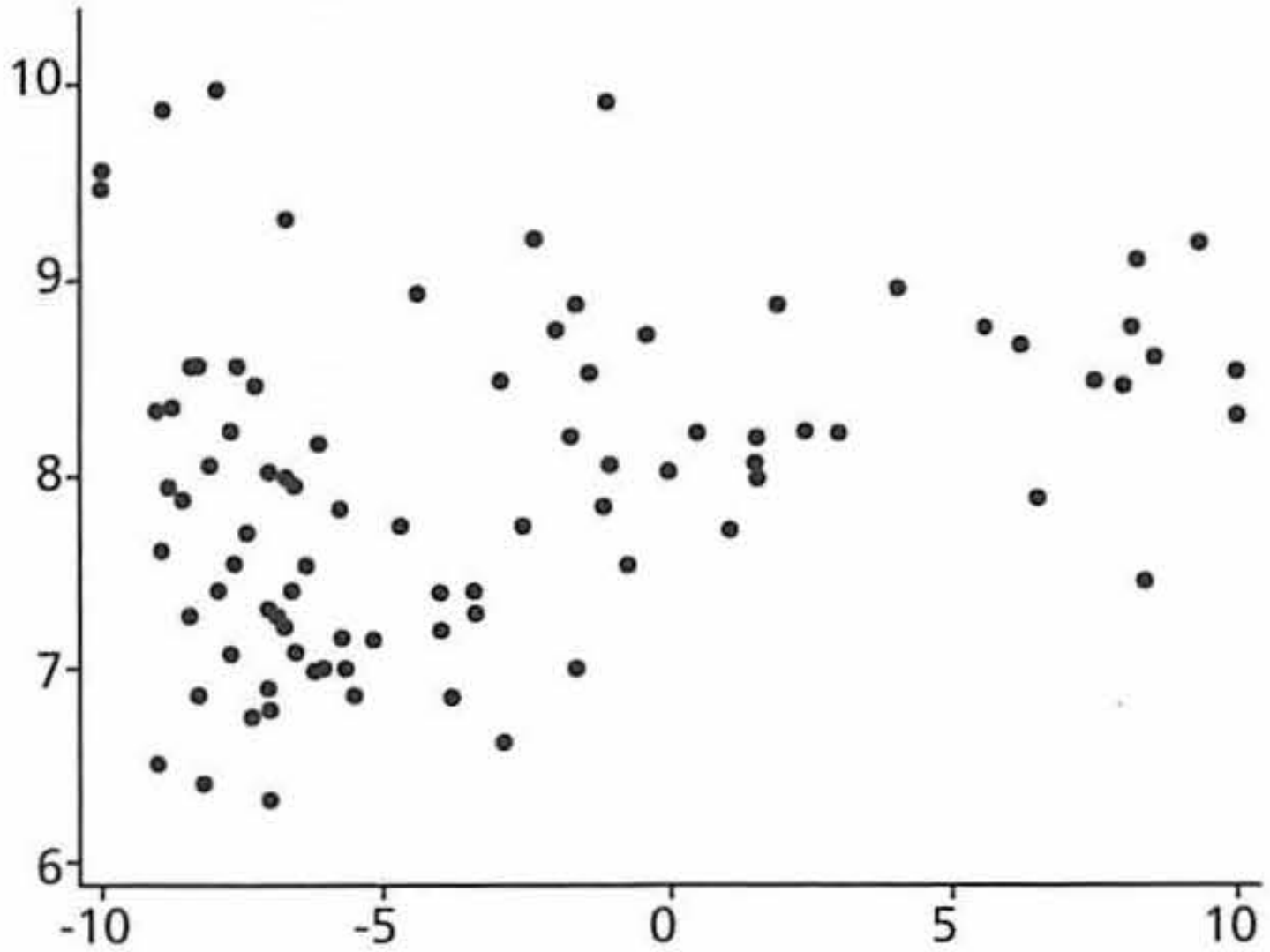
デモクラシーが「良い」理由 (2)

- デモクラシーでは報道の自由が認められている
- ➡ 貧しい人が苦しんでいる深刻な状況が、広く国民に知られる
- ➡ 政府は問題解決に取り組み、その努力を国民が選挙で評価する
- 独裁政府は検閲によって問題の発覚を免れる

デモクラシーが「良い」理由 (3)

- 独裁政府に比べ、民主政府のほうが公共財や再分配を提供しやすい
 1. そのほうが選挙で勝ち易いから
 2. 独裁制に比べ、民主制の支持母体は大きい：
公共財を提供するインセンティブが強い

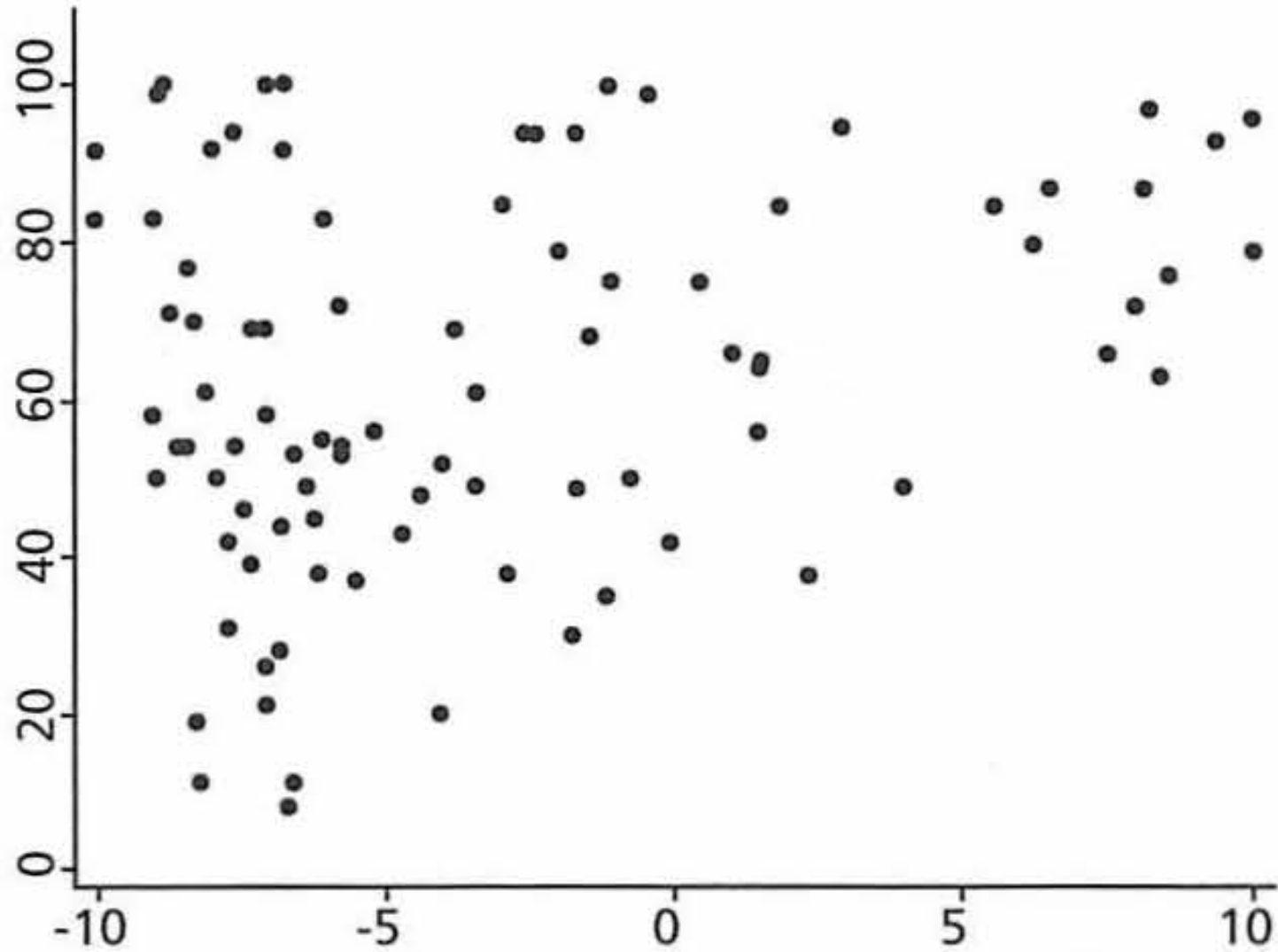
富
一
人
当
た
り
国
内
総
生
産



デモクラシーのレベル

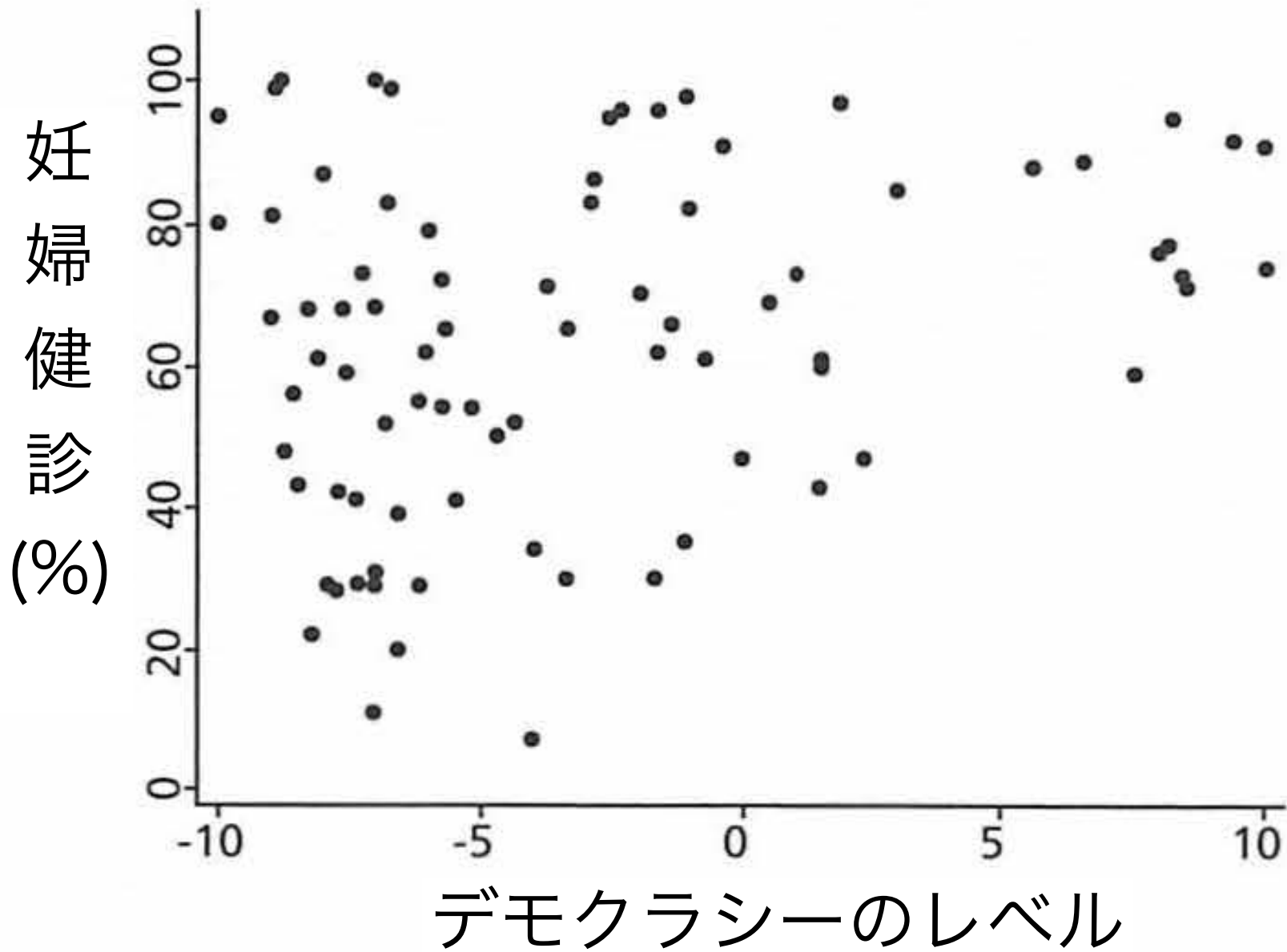
出典 : Clark, Golder, and Golder (2012: 343)

医者が取り上げた新生児(%)



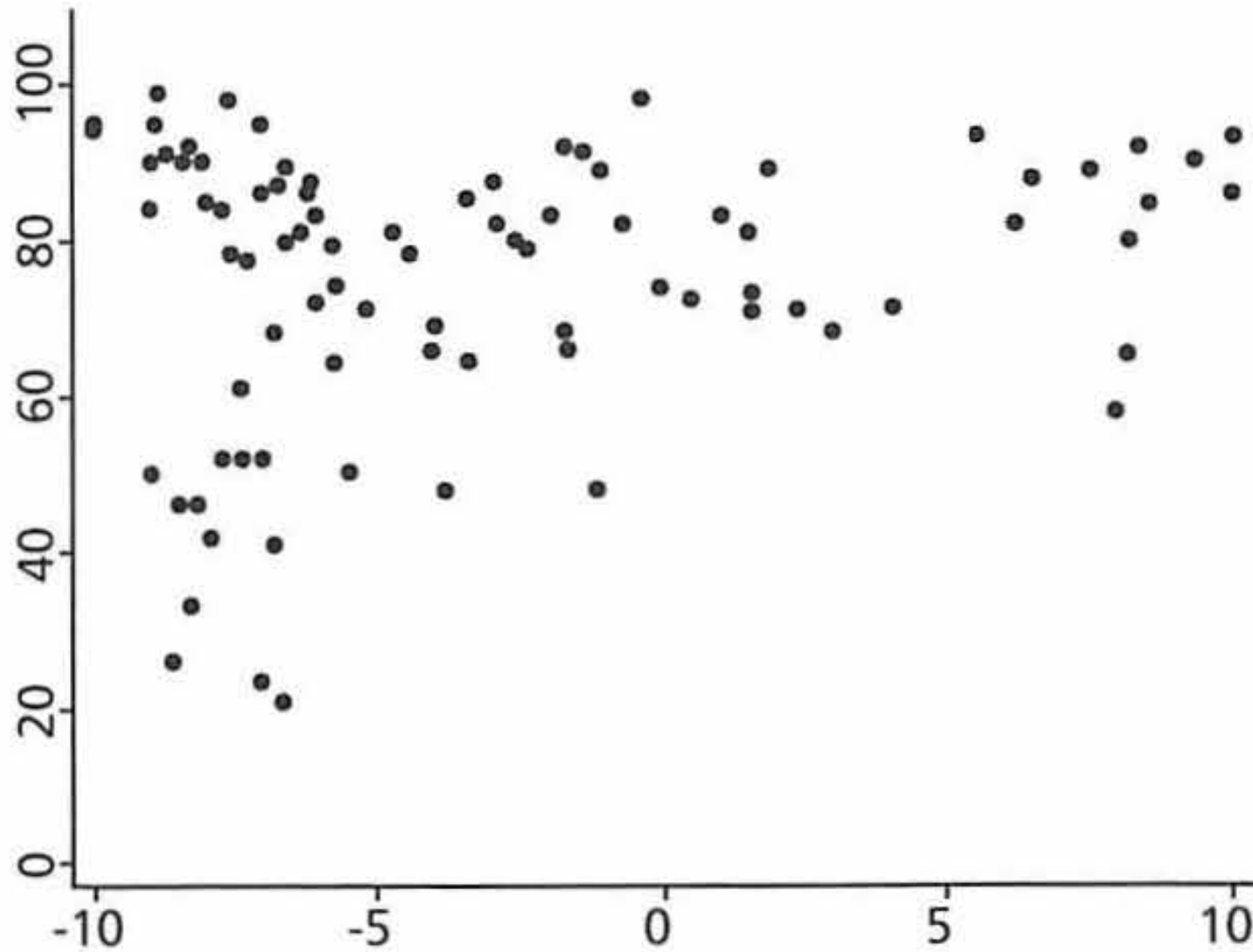
デモクラシーのレベル

出典：Clark, Golder, and Golder (2012: 343)



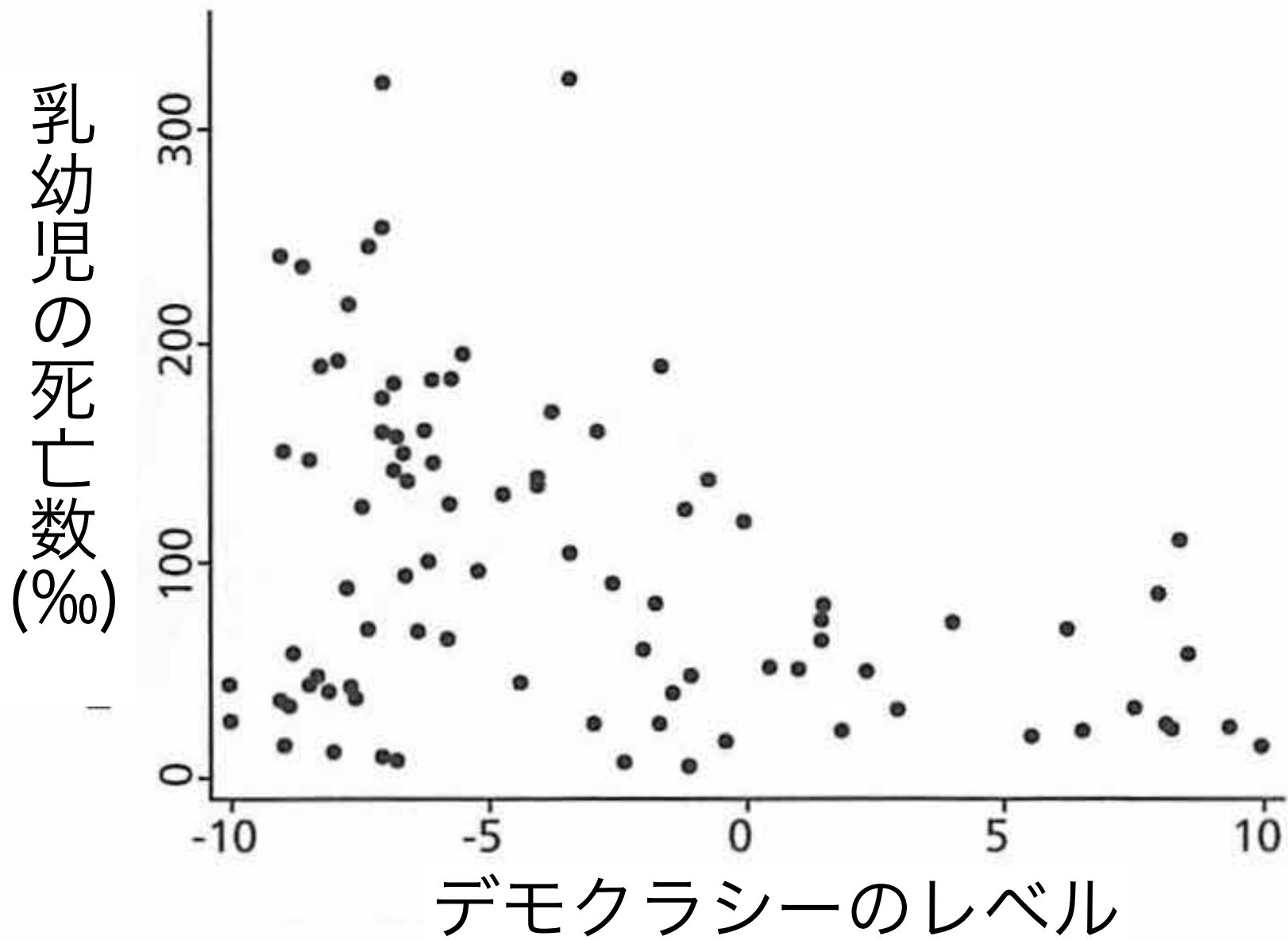
出典 : Clark, Golder, and Golder (2012: 343)

乳幼児のワクチン接種 (%)



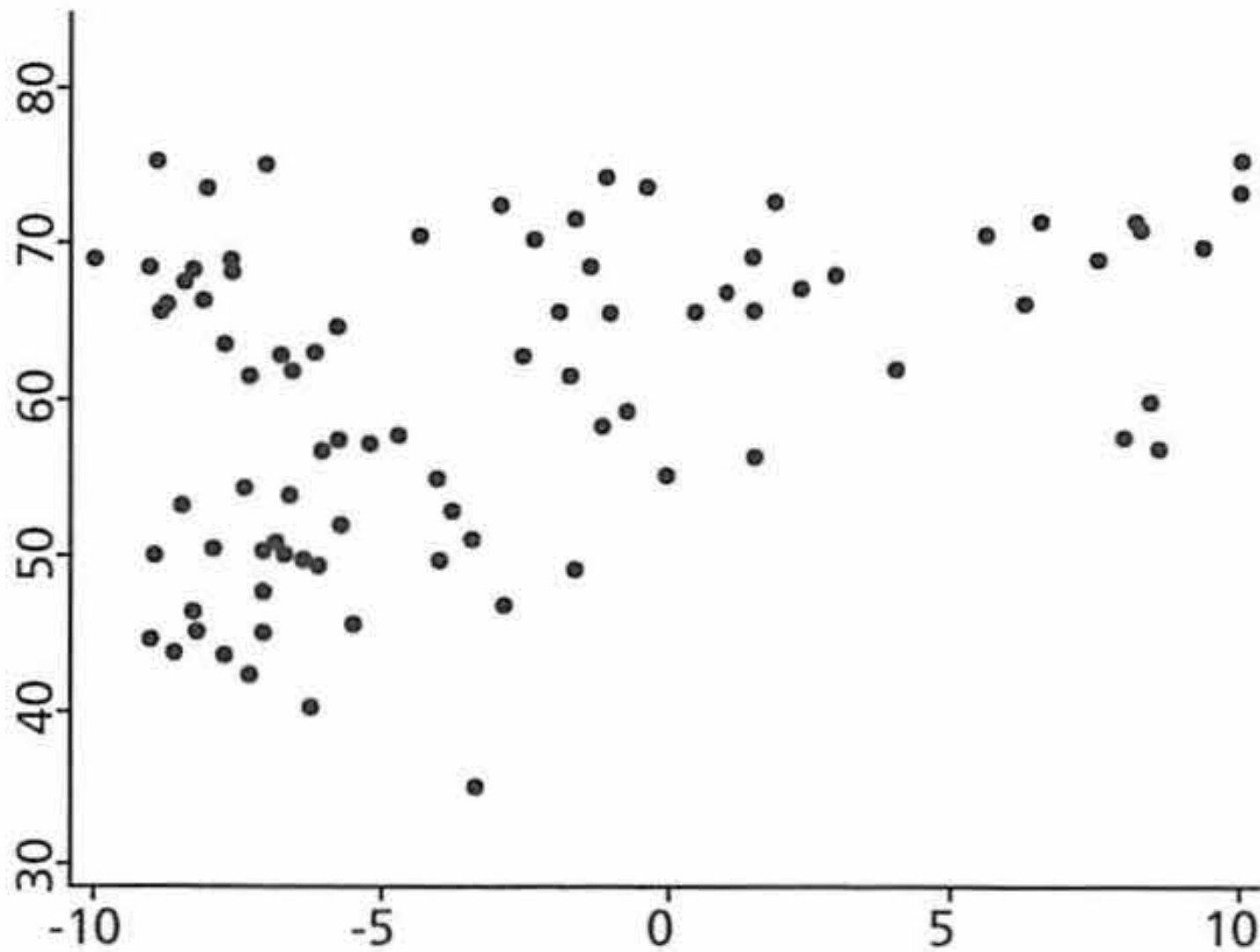
デモクラシーのレベル

出典 : Clark, Golder, and Golder (2012: 343)



出典 : Clark, Golder, and Golder (2012: 343)

平均
寿命



デモクラシーのレベル

出典 : Clark, Golder, and Golder (2012: 343)

三角形の関係

- 民主制：ある程度「良い」
- 独裁制：とても「良い」ときもあれば悪いときも

★民主制は「ある程度の」繁栄の十分条件だが、必要条件ではない

★民主制よりも「優れた」独裁制が存在する（特定の側面に注目した場合）

独裁制と民主制を比べる ときの注意

- 民主制に比べ、独裁制のパフォーマンスにはばらつきがある
- ➡ 独裁のパフォーマンスが大きくばらつく原因を探る必要がある

結論

- 独裁制と民主制のパフォーマンスを比べたとき、民主制が優れているという証拠はない
- 政治体制は関係ないの？
 - 最低限の生活を保障するにはデモクラシーの方がいい
 - その他の面についても、まだ結論が出ていない：さらなる研究が必要
- ▶ 民主制か独裁制かという大きな区別ではなく、より細かな制度の比較が必要（例：大統領制 vs 議会制 or 連邦制 vs 単一制）

期末試験

- 2月3日（水）
- 9時00分開始：60分間
- 試験場：第一学舎 212教室
 - 遅刻しないように！
 - 学生証とペンを忘れずに！